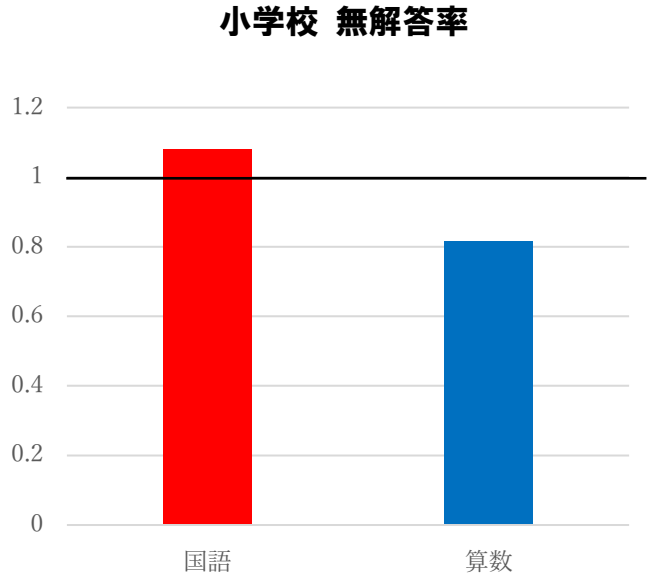
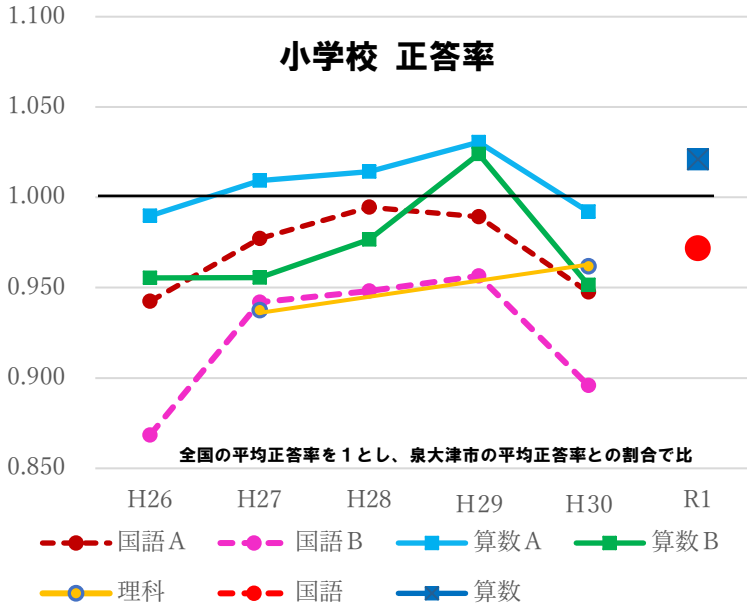


小学校結果

正答率比較

これまで、A区分（主として「知識」）・B区分（主として「活用」）に分かれていた国語と算数の問題が、知識と活用を一体的に問う問題となりました。区分がなくなったため、単純に比較することはできませんが、小学校では国語、算数ともに昨年度を上回りました。国語は全国の全国平均値を下回りましたが、算数が全国平均値を上回りました。

無解答率は、国語で全国平均値をやや上回ったものの、算数は全国平均値を大きく下回りました。



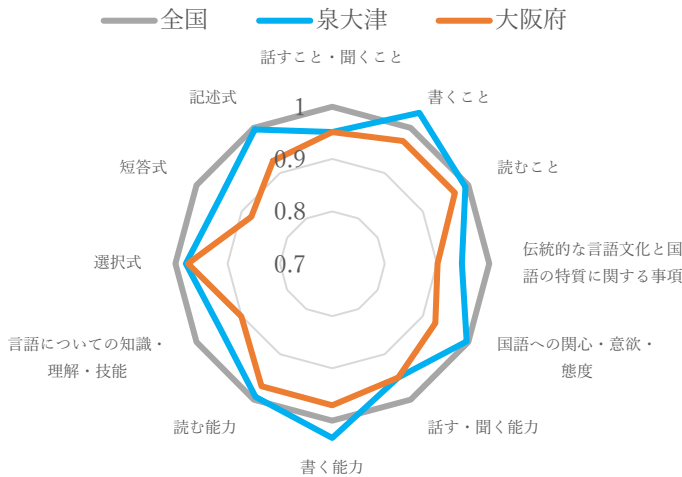
領域・観点・問題形式別

小学校では、国語の「書くこと」「記述式」の問題が経年の課題となっていました。令和元年度は全国とほぼ同等か、上回る結果となり、指導の成果が見られます。「言語等の知識や理解」「話す・聞く」は全国をやや下回っていますが、差は大きくありません。

算数に関しては、すべての領域・観点・問題形式で正答率が全国平均値をやや上回っています。経年の課題であった記述式についても、全国平均値を上回りました。

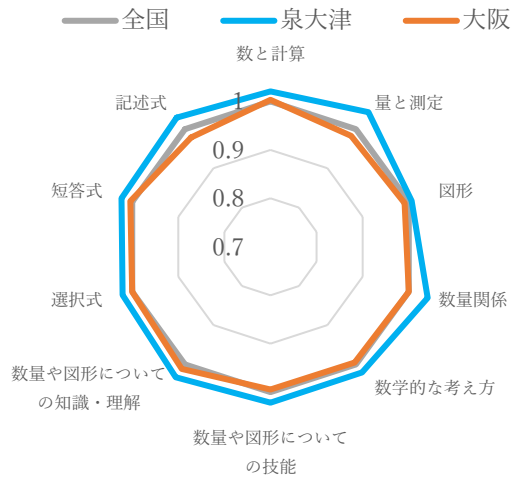
国語

小学校



算数

小学校



具体的な課題

「国語」

- ▲同音異義語に注意して、漢字を文の中で使うこと
- ▲話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる

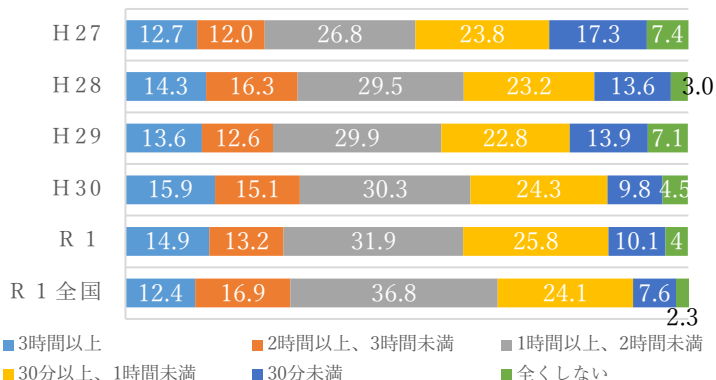
「算数」

- ▲図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること

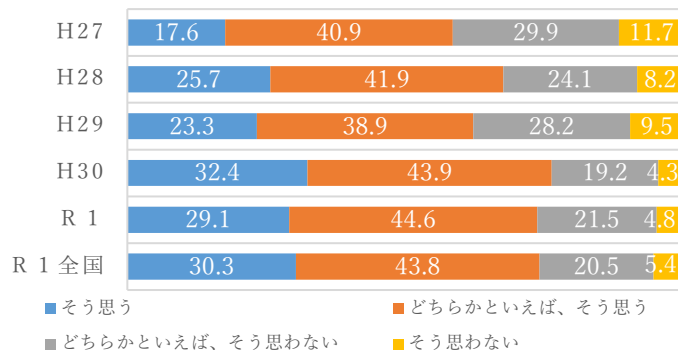
学習状況調査結果

小学校では授業時間以外の家庭学習の時間は、平成 30 年度と比べ、2 時間以上学習する児童は減少したものの、30 分から 2 時間未満の児童は増加しており、全く学習をしないという児童は減少しています。また、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできる児童は昨年よりやや減少しているものの、肯定的な児童の割合は、全国とほぼ同じ結果となりました。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの間、勉強をしますか。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



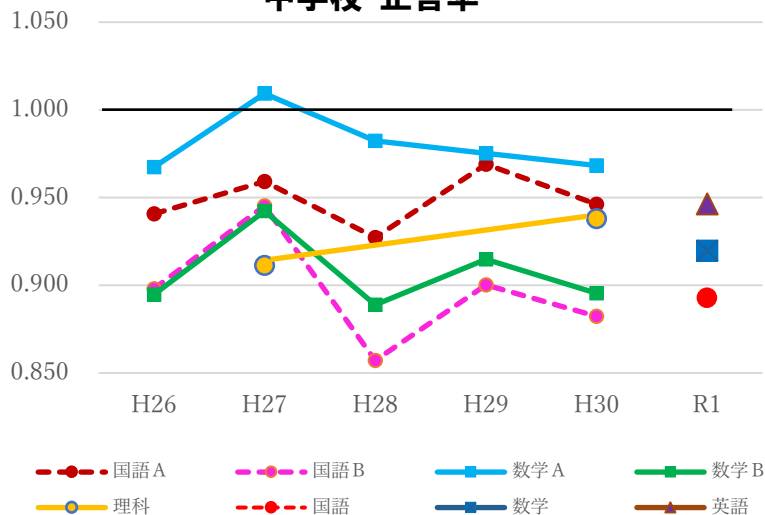
中学校結果

正答率比較

中学校でも国語および数学の区分がなくなり、あらたに英語が加わりました。国語、数学のいずれも平成 30 年度の A 区分（主として「知識」）は下回り、B 区分（主として「活用」）は上回る結果となりました。また、国語、数学、英語のいずれも全国平均値を下回っています。

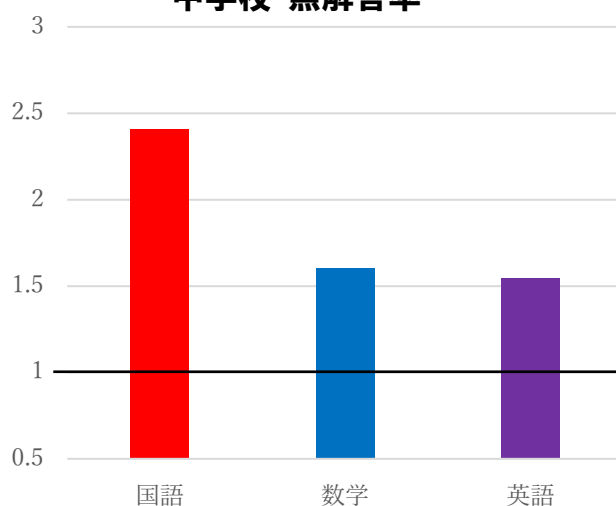
無解答率は、国語で全国の 2 倍を越えており、大きな課題があると言えます。数学、英語でも全国平均の 1.5 倍と大きく上回りました。

中学校 正答率



全国の平均正答率を 1 とし、泉大津市の平均正答率との割合で比較。

中学校 無解答率



全国の平均無解答率を 1 とし、泉大津市の平均無解答率との割合で比較。

領域・観点・問題形式別

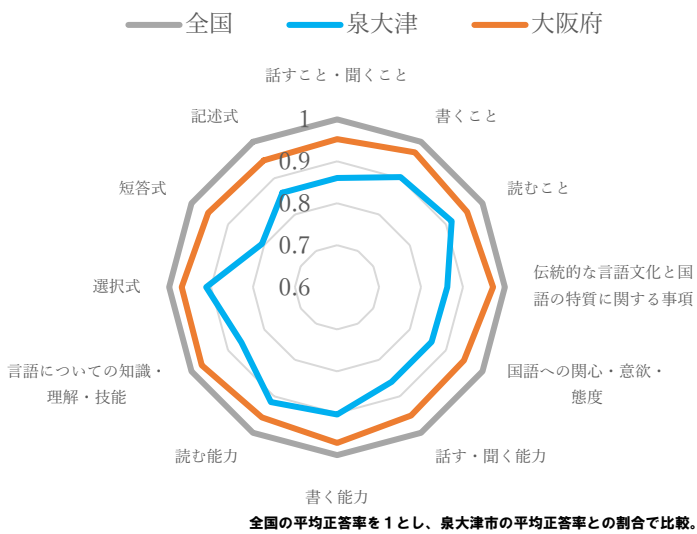
中学校は、国語に関しては、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てに課題が見られます。封筒の書き方を問われた短答式では、特に大きく全国平均値を下回りました。記述式では無解答率が特に高く、経年の課題となっています。

数学に関しては、平成29年度はA区分・B区分ともに正答率が全国平均値を上回っていましたが、平成30年度以降、正答率が全国平均値を下回っています。資料を活用する能力を求められる問題や、記述式の問題では全国平均値を大きく下回りました。図形に関する領域の問題では、全国平均値を上回る正答率もありました。

英語に関しては、参考値となった「話すこと」では全国平均値を大きく上回る正答率となった学校もありましたが、全体では全国平均値を下回りました。「聞くこと」は全国平均値に近い値となりましたが、インプットしたことをアウトプットすることに課題が見られ、話題に応じて自分の考えを示す記述式の問題では、全国平均値を大きく下回りました。外国語表現の能力でも、把握した内容に適切に応じることに課題があり、指導の充実が求められます。

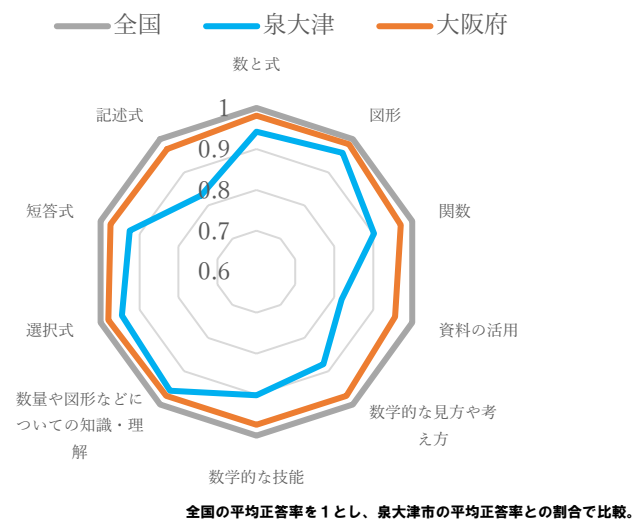
国語

中学校



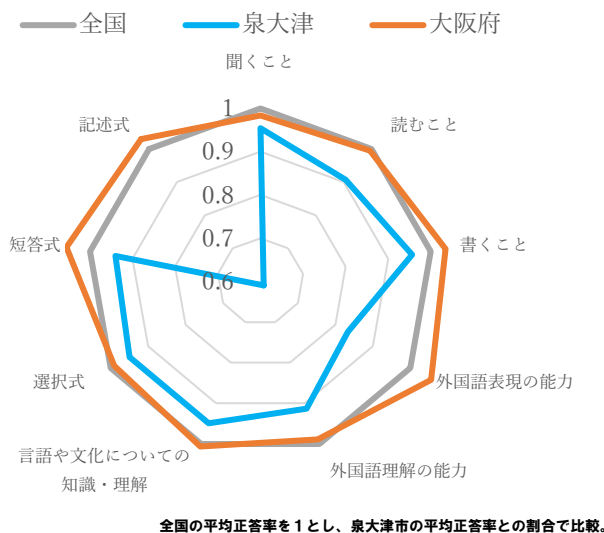
数学

中学校



英語

中学校



具体的な課題

「国語」

- ▲封筒の書き方など、基本的な知識を身につけること
- ▲文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つこと
- ▲自分が感じたことや考えたことを、根拠などを明確にして書くこと

「数学」

- ▲統計資料の傾向を的確にとらえること
- ▲数学的な表現を用いて問題解決の方法や、判断理由を説明すること

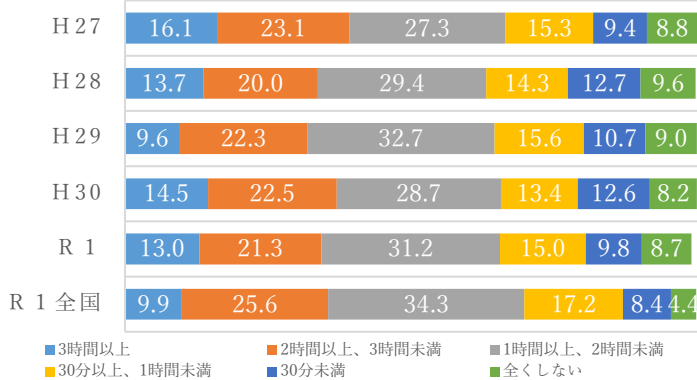
「英語」

- ▲聞いて把握した内容について、適切に応じること
- ▲まとまりのある文章を読んで、あらすじや大切な部分を理解すること

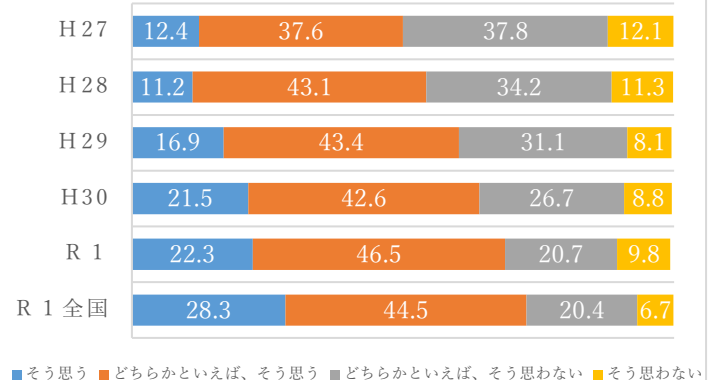
学習状況調査結果

中学校では授業時間以外の家庭学習の時間について、「30分未満」が減っていますが「30分以上」は全国平均に届かず、今後も家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導する必要があります。また、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできる生徒が増えており、生徒が主体的に学習に取り組む、自ら考えて課題を解決していく授業作りを、さらに推進していくことが求められます。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



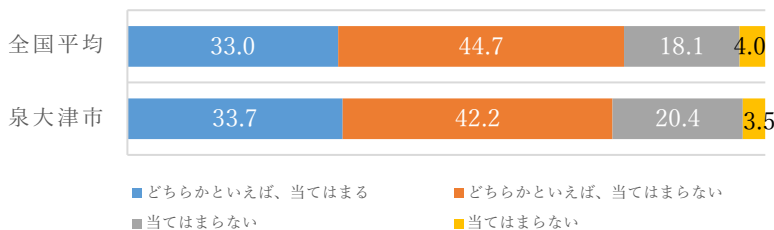
クロス集計

学習状況との関連

令和元年度の質問紙調査の結果の中で、学力調査の平均正答率と相関関係が見られる項目について、抜粋しています。小学校においては、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の回答状況と学力調査の正答率とを照らし合わせて集計しています。中学校においては、「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の回答状況と学力調査の正答率とを照らし合わせて集計しています。

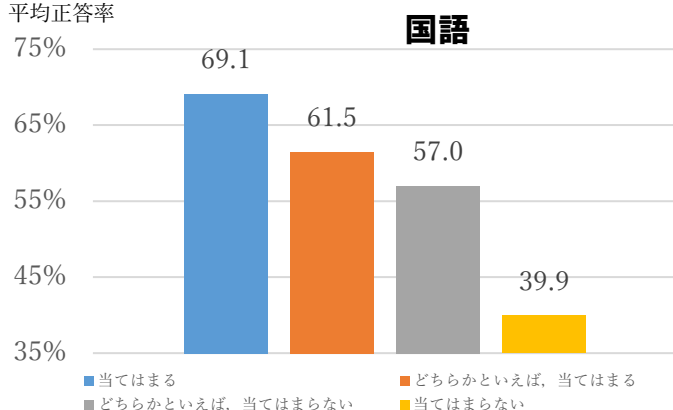
小学校

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

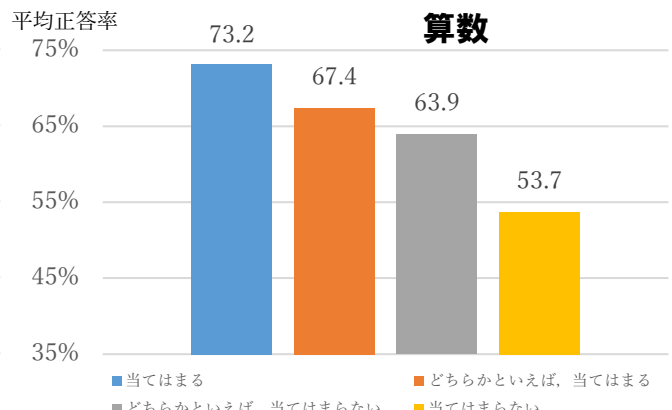


児童質問紙（35）「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」と学力調査との関連においては、授業において、主体的に取り組んでいたと考える児童ほど、正答率が上がっていることがわかります。

平均正答率

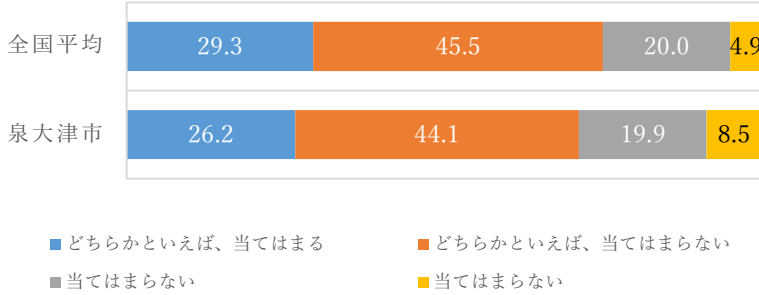


平均正答率

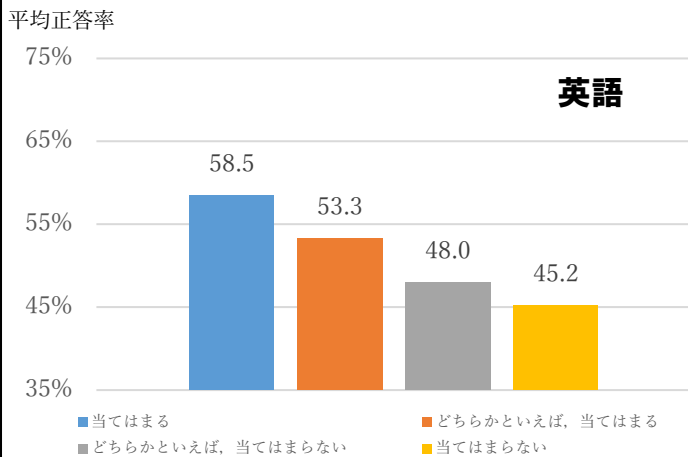
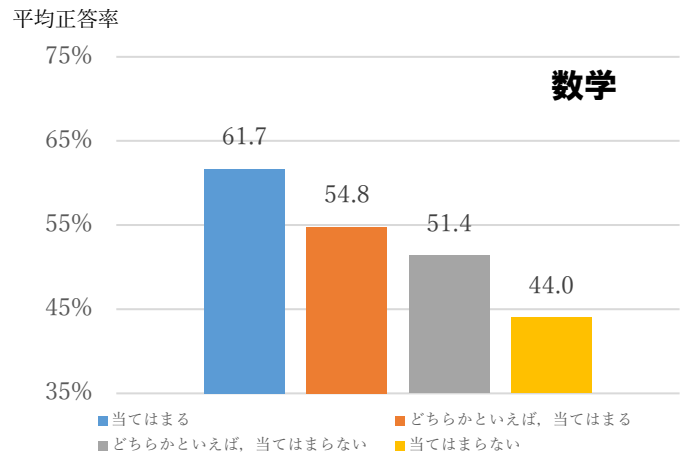
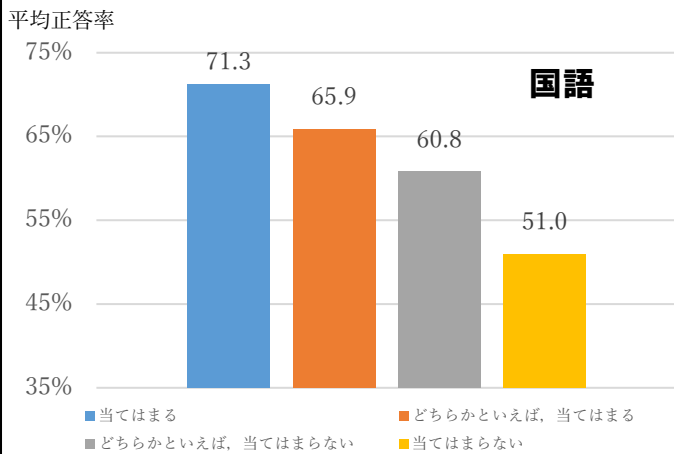


中学校

1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



生徒質問紙(37)「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」と学力調査との相関については、自分から取り組んでいたと思う生徒ほど正答率が高い傾向にあります。いずれの教科でも高い相関関係が表れています。



小学校も中学校も、子どもが「解決したい!」と思えるような課題を出すことがポイントだね。



【泉大津市の学力向上の取組み】

泉大津市における児童・生徒の学力向上をめざした取組みを紹介します。

- ・国や府による少人数指導加配教員に加え、市費による少人数指導教員を各小学校に1名配置

少人数加配教員は、チームティーチングで1クラスを複数教員で指導したり、1クラスを2つの少人数クラスに分割して指導したりするものです。子どもの学習の習熟度に分けて指導することもあります。一人の教員が指導する人数を少なくしたり、学力に応じた指導をしたりすることにより、より丁寧できめ細かな指導が可能になり、子どもの理解が進み、学力の向上につながっています。

- ・英語力向上の取組み

英語力向上及び自学自習力向上を目的に、市内公立中学校に通っている生徒対象に検定料の一部補助を行い、英語検定を積極的に受検する取組みを推進しています。

また中学校の英語科教員が小学校で外国語の授業を行い、小学校教員と連携しながら指導を行っています。

- ・学力到達度テストによる取組み

小学校3年生、小学校4年生、小学校5年生において、学力到達度テストを実施し、当該学年の学習内容の定着を確認しています。テスト結果を活用して、児童は個別の学習課題に取組み、教員は授業改善の手立てに役立てています。

- ・学校独自の学力向上プラン

本市の全ての小・中学校において、学力向上担当者を中心に学力向上委員会等で協議を行い、学校独自の学力向上プランを立て、学期ごとにその進捗状況及び成果と課題の検証を行っています。小学校では、学校独自の漢字実態調査や計算力実態調査等の結果を授業改善に生かすことで基礎基本の定着をはかっています。また、中学校では、「生徒による授業評価」の結果を授業改善に生かす取組みも行われています。

- ・教員の授業力向上や指導方法の工夫改善に向けての支援

教員の授業力向上や指導方法の工夫改善等による授業改善は、学力向上に直接結びつくと考えています。さまざまなアンケート、研究授業や研究協議を通して、各校の取組みに対しての成果と課題を学校全体で共有し、日々の授業改善につながる支援を行っています。また、市教委主催の研修をはじめ、さまざまな校外研修の情報提供も積極的に行うなど、学校の活性化・教員の授業力の向上に努めています。

- ・保幼小中高連携の取組み

校種間の連携を重視し、合同研修会や実践交流会の実施、公開授業への参加、推進協議会の開催など連携の強化を図っています。この取組みによって、子どもたちだけでなく教員の交流機会が増え、校種間の円滑な接続と連続性のあるカリキュラムの構築に向けた具体的な動きを進めています。

- ・学びっ子支援ルームによる取組み

子どもの自学自習力を定着させることをねらいとして、3年生以上6年生までを対象にすべての小学校区で放課後学習会を行っています。支援員は、本市退職校長をリーダーとして退職教員や地域の方で構成されており、子ども一人ひとりに寄り添い、宿題をはじめとして家庭学習の習慣化の支援を行っています。

・ 地域との連携による取組み（コミュニティ・スクール、地域学校協働活動）

本市すべての中学校区に地域教育協議会が設置されており、「〇〇ネット」という名称で活動しています。それぞれの中学校区ごとに、星空観望会やものづくり教室、歩こう会やフェスタなど校区の特徴を生かした取組みを多数開催しています。地域と学校が協働した取組みによって、地域の方々と子どもたちが触れ合う機会をつくるなど、地域全体で子どもたちの成長を見守っています。また、小津中校区では、コミュニティ・スクールを通じての、目指す子ども像の共有など、開かれた学校づくりに取り組んでいます。

泉大津市教育委員会は、本年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察した上で、各校における取組みの工夫改善を支援し、子どもたちの学力向上をめざします。